

## 綺麗な人形

小佐野 誠

ある美術館に一体の人形が展示されていた。その人形は人間のよう精巧でも美しくなかった。しかし、何故か両目がなかった。作者は死んでしまったので理由は分からない。それでも綺麗だった。その美術館には幽霊が出るといわれていた。深夜に警備員が見たという。その幽霊はとても美しかったので人形が目を探してさまよっているんじゃないかといううわさも流れている。

その人形を盗もうとする泥棒がいた。彼は人形を一目見たとき、目と心をうばわれた。それから人形の事を考えずにはいられなくなり、盗もうとしたのだ。

深夜、忍び込んだ泥棒は人形がある部屋に行った。懐中電灯に照らされた人形は手足をそろえて座っている。見れば見るほど美しい人形だ。十歳ぐらいの少女をモデルにしたのか幼い体にもかかわらず成人女性にも敵わないであろう整った顔。両目がないこともあつて怪しさがあつた。

いざ盗もうとしたとき、泥棒は気づいた。人形はほのかに温かかったのだ。まるで体温のような温かさだった。人形の顔を見上げた。その顔は笑っているように見えた。泥棒はうわさ話を思い出した。美術館のさまよう幽霊。その正体はこの人形なのではないか。そして目を探しているのが本当なら今、目を持っているのは、人形の目があるべきところをよく見てみた。そこにあつたのは様々な目玉。見ただけでも十はあつた目玉はすべて泥棒の方を見ていた。おぞましい光景に目を背けようとする。しかし、目を離すことができなかった。綺麗な人形は笑いながら手をのばしてくる。あまりにも美しい人形に泥棒は目をうばわれた。

「ニュースをお伝えします。美術館で殺人事件がありました。被害者は目がなく、犯人は現在逃走中とみて捜査をしています。美術館は閉館となり、展示品は世界各地の美術館で展示される予定です。それでは次のニュースです。」

とある美術館で一体の人形が注目されていた。あまりにも美しすぎる人形目当てにたくさ

んの人が押し寄せた。その美しい人形は両目がないという。今度はその美しさに何人の目がうばわれるのだろう。